

いしかわの海岸環境保全推進活動への参画

団体名●池田ゼミナール、野外スポーツ部／代表者名●池田幸應(人間科学部スポーツ学科教授)

はじめに

石川県は583kmの海岸線を有し、海岸線をきれいにする海岸愛護運動「クリーン・ビーチいしかわ」が1995年からスタートし全県の県民運動として全国へ発信されている。本学学生も1998年度より、池田ゼミナールも2009年度から継続参画しており、「クリーン・ビーチいしかわinかなざわ」(5月)をはじめ、「学生クリーン・ビーチいしかわ大作戦」(9月)等にも本学野外スポーツ部と共に運営・サポート参画してきている。しかし、残念ながら本年度は新型コロナウイルス感染により、多くの活動が中止された。

活動内容

本稿では、2020年度中の活動の中で池田ゼミナールが参画した「令和2年度漂着ごみ組成調査」活動について報告する。本活動は、令和2年度環境省海岸漂着物等地域対策推進事業として、石川県が実施したものであり、選定調査海岸に流れ着いた漂着ごみを回収・分類し、その組成や存在を調査・記録することにより、県内の漂着ごみの実態を把握することを目的としている。本ゼミナールは、これまで継続的に石川県「海辺の漂着物調査」〔羽咋市柴垣海岸〕に参画しており、本年度においては、環境省事業と連動実施することとなった。

ゼミナール学生は、海洋ごみについての事前学習を行い、2020年10月27日(火)に石川県生活環境部資源循環推進課及び株式会社環境公害研究センター担当者、そしてクリーン・ビーチいしかわ実行委員会事務局メンバー、国立能登青少年交流の家職員と協働で調査・分析活動を実施した。

成果、結果の考察

回収された漂着ごみについて、その個数、容量、及び重量のすべてにおいてプラスチックが最も多く、例えばペットボトルや漁業用浮き等は、中国・台湾に起因する割合が最も高い結果であった。



ゼミナール学生の海岸ごみ回収の様子

活動は、単なる海岸ごみの組成調査に留まらず、環境省、や兼愛連携機関・団体等との連携協働による次世代人材育成としての側面に加え、新聞、テレビ、YouTube等による情報配信により、環境教育推進にも大きく役立っている。今回、特に新聞、地元テレビニュースに加え、海外向け番組「NHKワールド」に取り上げられ全世界に配信されている。



海外向け番組による全世界への活動配信

今後の課題、展望

世界的なSDGsの取組の流れや頻発する自然災害に対して、私たちは日々の生活の中で「自然」をより意識することが重要である。今後も「クリーン・ビーチいしかわ」の活動をはじめ、本活動についても継続、推進が望まれる。